

東日本大震災から、五年以上の月日が流れました。

復興道路などの基幹事業については順調に進捗し、高台移転などのまちづくり事業も着実に進展し、被災地の復興が目に見える形で実感できつつあります。日頃より復旧・復興事業に携わっておられる方々のご努力に感謝を申し上げます。

復興・創生期間に入った本年は、復興の総仕上げに向け、私たちは、更なる復興の加速化を図り、地方創生のモデルとなるような復興を実現するため、今後も一丸となって努力をしていかなければなりません。

今回の震災では、三陸自動車道が「命の道」として大きな役割を果たしました。また、避難通路や質的に強化した河川堤防が多く、命を守り、湾口防波堤が津波の衝撃を緩和して街の被害を軽減させました。しかしながら、先般の熊本地震においても、甚大な被害が発生しています。私たちは、今後来るかもしれない首都直下型地震等の大災害に備えるためにも、この大震災で得られた数々の教訓が風化しないよう、次の世代に伝承する役割を持ってまいります。

一方、自動車産業の集積、北海道新幹線の開業、観光復興の推進など、東北経済活性化の動きが加速化しているなかで、社会資本整備全般をみれば、昨年の関東・東北豪雨にみられるような激甚化する気象災害や、加速するインフラ老朽化、人口減少による地方の疲弊、激化する国際競争、生産性の低下、建設業の担い手不足の危機に直面しています。

東北全体の復興及び持続的な発展を目指すためには、東北圏広域地方計画や東北ブロックにおける社会資本整備重点計画を踏まえつつ、すべての国民が安全に安心して暮らしていける強靱な国土をつくり、経済活動の生産性を向上させ、民間投資を誘発することにより、持続的で力強い経済成長を支えていけるよう、継続的な公共投資がこれからも必須であります。

よって、次に述べる事項について、広くご理解を求めるものであります。

- 一、被災地の復興に向けて、復興・創生期間においても、復旧・復興事業について、十分かつ確実な予算措置を講じること。
- 一、この大震災で得られた教訓が風化しないよう伝承するとともに、今後も社会資本整備の役割について理解促進を図ること。
- 一、東北全体の経済活動が活発になるよう、高規格幹線道路など必要な社会資本の整備を推進すること。
- 一、脆弱な国土構造を抱える現実をしっかりと見据え、防災・減災対策、国土強靱化対策の推進とその財源等について早急な対応・対策を講じること。
- 一、生活やあらゆる社会経済活動を支える社会資本の老朽化が進む中で、人命と財産を守る観点から、社会資本の戦略的な維持・管理・更新等を推進すること。
- 一、人口減少下であっても持続的で力強い経済成長に貢献する生産性革命を進め、ストック効果が最大限発揮される取組を推進すること。

平成二十八年七月二十一日

「東北の社会資本整備を考える会」

要 望 書

平成二十八年七月二十一日、「がんばろう！ 東北」をテーマにフォーラムを開催し、次の通り、要望事項を採択いたしました。
善処くださいますようお願いいたします。

平成二十八年七月二十九日

「東北の社会資本整備を考える会」

(一社)東北経済連合会会長 海 輪 誠

東北六県商工会議所連合会会長 鎌 田 宏

東北・北海道中小企業団体中央会
連 絡 協 議 会 会 長 今 野 敦 之

東北六県・北海道商工会連合会
連 絡 協 議 会 会 長 竹 林 秋 雄

東北建設業協会連合会会長 千 葉 嘉 春

